

ワケ カタチには理由がある(30)

～マッキ Mc200 戦闘機



[同じく砂漠迷彩を纏った Ba88 と→]

本機は 1936 年に初飛行したイタリア空軍の戦闘機です。胴体中央を高くして、ここにコクピットを設けるといふ、そのデザインコンセプトが明確な機体です。このような思い切ったレイアウトをとっても美観が損なわれていないのは、数々の美しい自動車を生み出してきたイタリア人らしいセンスの良さによるのだらうと思います。コクピットから機首にかけてスラント(傾斜)させるとともに、エンジンカウリングもシリンダーヘッドを逃がすための紡錘形の膨らみを形成して直径を極力小さくしており、コクピットからの良好な視界は良好だったらうと思われまふ。本シリーズ(6)で取り上げたコルセア戦闘機と対極な外観を有する機体です。本機のア称は、サエッタ(saetta)でイタリア語で稲妻の意味です。なお、イタリア空軍機の塗装にはグリーン/ブラウン斑点というやうな大柄な迷彩塗装もありますが、このサンドイエロー上にダークグリーンの斑点を施した、北アフリカ戦線で施された砂漠迷彩がやはり一番美しいやうに感じまふ。

【模型について】

スロバキアの AML 製 1/72 の簡易インジェクションキットです。とはいへ、プラスチックパーツだけではなく、カウリングなどのレジンパーツとエッチングパーツが付属しており、いわば複合素材キットと呼べるものです。プラスチックパーツ部分は多少ラフですが、レジンパーツが高品質なので、うまく組み上げるとキリとした作品となります。

(中川裕幸 2021 年 6 月)